



# 上山小学校「風のたより」

令和6年11月19日（火） 校長 有谷孝彦



学校経営目標：ふるさとを愛し、  
自らの未来を切り拓く児童を育成する



## 二宮尊徳（金次郎）さんについて

二宮尊徳と言えば、わたしたちの年代であれば誰もが知っているお名前です。勤勉の象徴として昔から至る所の学校にその銅像が建立されておりました。

ところで、二宮尊徳は書物を片手に仕事をしているのですが、いったい何について学んでいるのでしょうか？

銅像の本にはこう書かれています。「一家仁、一国興仁、一家讓、一国興讓、一人貪戾、一国作乱、其機如此、此謂一言憤事、一人定国」これは、儒教（儒学）の基本思想を示した経典『論語』『孟子』『大学』『中庸』の四書のうち、自己修養と政治思想を説いた『大学』の解説だそうです。「一人ひとりが思いやりや慈しみの心を持てば、みんなこぞってその心になり、一人ひとりが自らへりくだった謙虚な気持ちを持てば、みんなこぞってその心となり、一人ひとり自分だけの利益だけを考えて、間違っただけをすれば、みんなこぞってその心となって社会は乱れ、人々は争い始める」ことを教えています。なるほど、その裏には深い意味があることに感心したところです。時代の流れに乗り遅れないようにとの思いで、「最新」を学ぶのも大切ですが、故きを温ねて新しきを知ることも必要であることを感じた次第です。



もくせいのたより

金子みすゞ

もくせいのたよりが

庭いっぱい。

おもての風が、

一門のよきで、

はいろか、やめよか、

そうだった。



## 懸命に！ 賢明に！

「やりやあいいいでしょ？やりやあ！」という意識で学習に取り組むとどうなるでしょう。学習内容の理解はおろか耳や心に届くこともありません。ましてや定着なんてできるわけがありません。私たちは、子供たち自身が学び取ろうとする授業を展開しようと日々努力しています。なかなかうまくいかないのが現状ですが、半年を終えた今、ずいぶん前のめりの授業態度を観ることができます。



最近の大学では、知識に関する学習内容は、インターネットの動画で配信し、学生は自宅で学んでいることが多いそうです。では、学校では何をするのでしょうか？学校では、知識はすでに学んできたものとして取り扱い、学んできたことを生かした討論や発展学習を行っています。大講堂で百名単位の講義を受ける時代は終わっているのです。自分の将来の職業（キャリア）を見据えたうえで、また、人との関わりの中で必要な知識を駆使し、自分の考えを表現したり、議論したりしながら、学び取る学習スタイルが主流となってきています。このようなことを考えると、懸命に努力することも必要ですが、賢明に学ぼうとすることが肝要ではないかと考えます。家庭学習の時間を1時間すると決めて行うのも大切ですが、例えば「帰ってきて30分は、朗読と漢字の練習をする。」「風呂上がりの30分間は、必ず計算に取り組む。」など、工夫した賢明な取組や自分スタイルを考えていくことが、これからのさまざまな変化に対応できる学習ではないでしょうか。家庭での学習計画をもう一度見直してみませんか？スクラムを組んで取り組みましょう。

### あなたの姿 いかがですか？

以前仕事をしていると、「キノコの里の精」が植木鉢にしがみついていた。「自分の姿」を見ているようで、親しみを感じるとともに「これでいいのか？」と自問自答しました。私は追い込まれないと力を発揮できないタイプだと思っています。コンスタントに力を発揮したいのですが、崖っぷちに立ってみないとわからないこともあります。人生修行ですね！



☆上山小のHPもご覧ください。学校だより（表）の2次元コードをご利用ください。